【松山東雲女子大学人文科学部心理子ども学科子ども専攻に合格されたみなさまへ】

【入学前課題】

子ども専攻での学びの準備

楽しんで、面白く、やってみよう！

松山東雲女子大学
人文科学部心理子ども学科
子ども専攻

2027 年度入学生用

子どもに寄り添う、質の高い保育者・教育者となるために

この度は松山東雲女子大学人文科学部心理子ども学科　子ども専攻に合格され、おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。みなさんは今、これから始まる大学での学びに対する期待や不安の入りまじった気持ちでいらっしゃることと思います。

子ども専攻では、４年間の養成課程を経て、学生さんたちが「子どもに寄り添う、質の高い保育者・教育者」となられますように、教員一同、それぞれの専門性からお支えする体制を作ってお待ちしております。

そこで、「子どもに寄り添う」こと、そして「質の高い保育者・教育者」となること、これを考えていくにあたり、入学までの期間にまずは自分や周囲を見つめ直していただきたいと思います。

具体的には、これから入学までの時間に、みなさんに対していくつかの課題を出させていただきます。

この課題は、ピアノの楽器演奏を行うにあたって、スムーズに学習することができるようにまずは音符を読む、そして読んだ音符を実際にピアノで弾いてみる、また私達を取り巻く自然や物事から気づくことや感じとること・他の人の言葉から自分がどう考えるかを書くという内容です。

大学では、これまでの高校での勉強をもとに、何かに対して、自分はどう感じるか。そしてどのような意見を持つのかということをはっきりと打ち出すことが求められます。

そして、自分を取り巻く自然や物事に興味関心を持つことも重要です。観察して、おもしろいところを探すことなどは幼児の特徴と重なるものです。コツコツと取り組み、やり終えて自信を持てるところや強みは何かに気づいていくことは、「質の高い保育者・教育者」になっていくための第一歩になると考えます。

今回の入学前の課題では、みなさんひとり一人が主体的に（自分から進んで）取り組めるようにさまざまな工夫を凝らしました。どうか、今のあなたの物事に対する感じ方や探求心をはたらかせて、これらの課題であなた自身を表現していただきたいと思います。

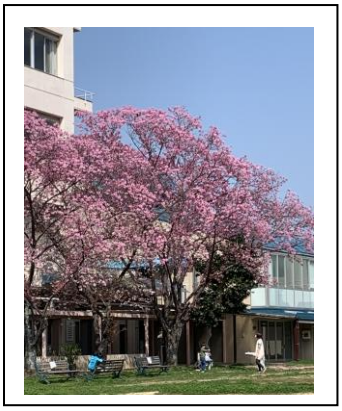
提出は、４月の入学式・オリエンテーションが終わり、１年生必修の「学びの基礎Ⅰ」の授業時間です。

それまで少しずつ、それぞれの興味・関心に応じてやってみてください。

新年度にお目にかかれることを楽しみにしています。

子ども専攻教員一同







課　題　内　容

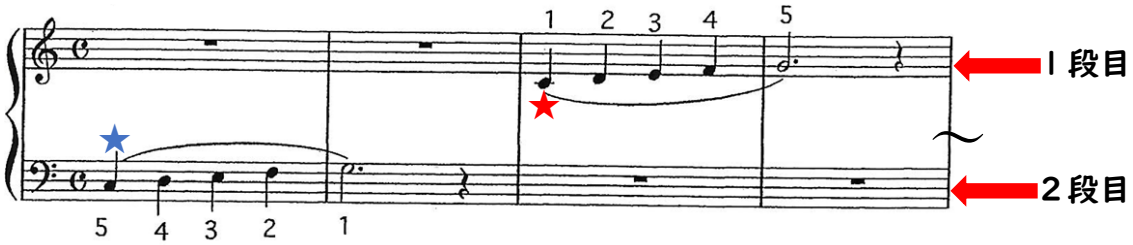
【はじめにお願い】

1. どのようなものでもいいので、ノートを１冊用意してください。無地でも、罫線があっても、紙の色は白くても、そうでなくてもかまいません。A4 サイズのものをご用意ください。

2. 表紙に「入学前課題」と書いてください。その下に自分の氏名を書きます。
（かっこよく、あるいはかわいくなど、お任せします）
このデータをダウンロードして印刷し、そのままノートに貼り付けてください。以下の３つの課題のうち、最初の音楽の課題は直接プリントに書き込む部分があります。読書感想文はノートに書き込んでいくものとします。表紙や中身にはぜひ色を付けたり、絵を描いたりして「きれいに、おもしろく」するための工夫をしてみてください。[初回の「学びの基礎Ⅰ」（１年ゼミ）のときに提出します。]
※提出方法については、入学後オリエンテーションで説明をします！

課題１：音符を読んでみよう！

音符を読む前に、まずはピアノの楽譜はどのようなものなのか、例として下に楽譜の一部分を載せています（譜例１）。



譜例１

譜例１を見ると楽譜が２段ありますが、１段目は右手で弾くパート、２段目は左手で弾くパートとなっています。そして、それぞれの音符に付されている１～５の番号は指番号（ゆびばんごう）と呼ばれるもので、ピアノで実際に弾く際に、右手や左手のどの指で楽譜に書かれてある音符を弾くのか、その運指（運指（うんし）（指使（ゆびづか）い））を示しています。

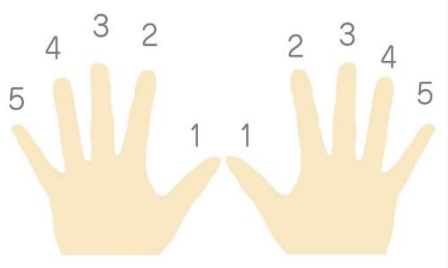


図１　指番号

例えば、１段目にある１～５の番号を付されている音符は、１が右手の親指、２が人差し指、３が中指…というように図１の右手の１～５の番号が付されているそれぞれの指を使って演奏します。

このように楽譜に書かれている指番号は、ピアノをスムーズに弾くための指の動かし方を教えてくれます。

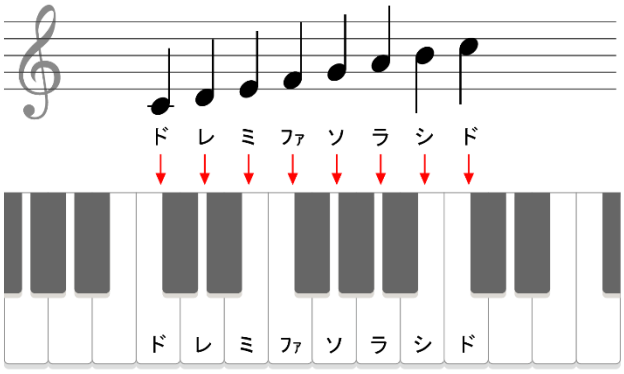


図 2

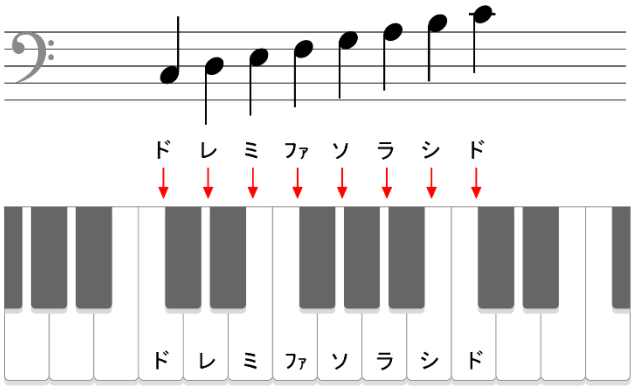


図 3

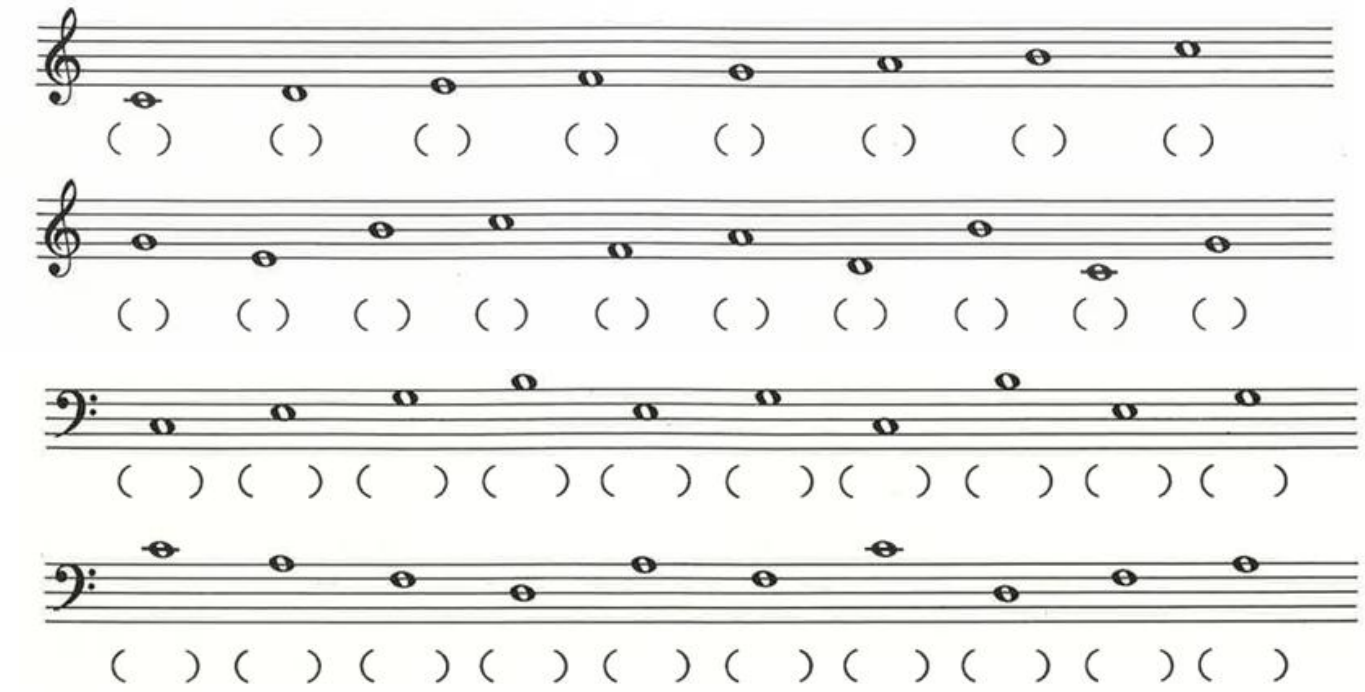
さて次は、楽譜にある音符には図 2 に示したように、それぞれ呼び名（音名）があるということを知っておきましょう。このほかにも音名がありますが、まずは図 2 にあるように各音符をドレミファソラシド（イタリア語音名）というように呼びます。そして楽譜に示された音符が、ピアノの鍵盤の位置でどこにあたるのかも示していますので、実際に弾くときに参考にしてください。

楽譜の左にある音部記号（𝄞や𝄢のマーク）によって、音の呼び名も変わってきます。図 2 と図 3 で左にト音記号（𝄞）がある場合と、ヘ音記号（𝄢）がある場合ではそれぞれの音名が違いますね。

そこは重要なポイントなので、しっかりおさえておいてください。

それでは、ここまでの知識を使って、下の問題に取り組んでください。

問題：（　）にイタリア語音名を書きましょう。



注意点：この問題については、１年前期の「音楽Ⅰ」の初回授業で取扱います。

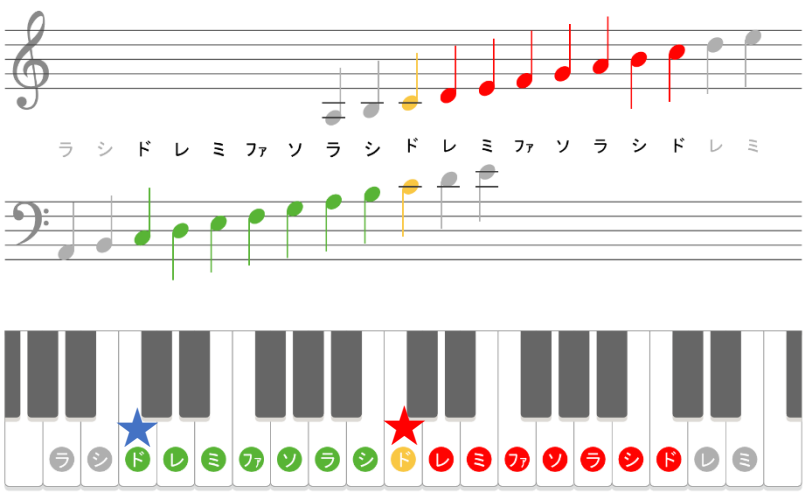


図 4

この問題を解き終わったら、きっとそれぞれの音部記号のイタリア語音名がわかり、音符が少しでも読めるようになっていると思います。そこで最初の譜例 1 にもどって、図 4 と図 5 を参考にして、譜例 1 を実際にピアノに触れて弾いてみましょう。

身近にピアノが置かれていない場合は、頭の中でイメージしてみてください。

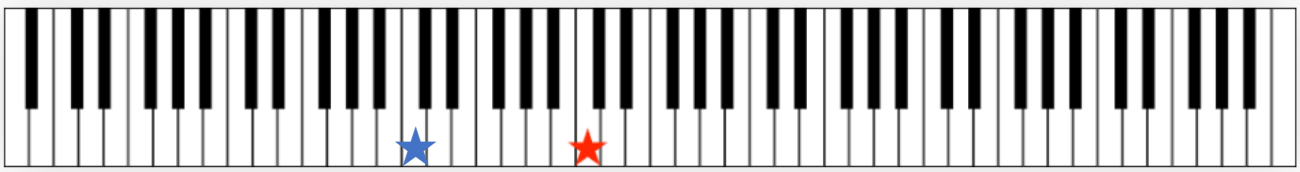


図 5

※88 鍵盤のピアノを弾くときは、鍵盤の真ん中にあるドの位置が図 4 と図 5 の★にあたります。
譜例 1 の弾きはじめのドの位置はそれぞれ★（右手）、★（左手）で示しています。

課題２：身近なモノや自然をよーく見て、

① 顔や動物，そのほかいろんなモノにみえるモノを探して写真を撮る。

②「春の自然の音（5 秒まで）の動画」もしくは「おもしろい！と思った生きものの写真」を撮る。

① 顔や動物，そのほかいろんなモノにみえるモノを探して写真を撮る。

① の要領

たとえば子どもには「顔に見えるモノ」を探して（見立てて）楽しむ時期があります。これは幼児の造形表現活動における「見立てる遊び」と連動したもので、ことばの獲得と共に物事に意味づけをしていく点からも、子どもの発達の過程においても大切なことです。

みなさんも、きっとそのような時期を通って今に至っているはずなのですが、もう長いことこうしたおもしろさを忘れて過ごしてきたことでしょう。

そこで、身の回りのあらゆる場所で、「顔に見えるモノ・動物やそのほかいろんなものに見えるモノ」を探してスマホなどで撮影してください。（データで提出していただきますので、氏名と日付、タイトルを考えてつけて保存しておいてください）提出する画像は５枚までとします。探し始めるとおもしろくなります。気づいたモノが多ければ多いほど、写真は多くなり、モノの見方は洗練されることでしょう。撮影したモノの中からよいものを選んで、厳選したお気に入りの画像を期待しています。

注意点：１）初めから明らかに「顔」や「動物」であるモノは、この課題の対象ではありません。あなたが「あ、これは顔に見える！」「まるで動物の○○みたいだ！」などと気づいたモノだけとします。（下の例を見てください）

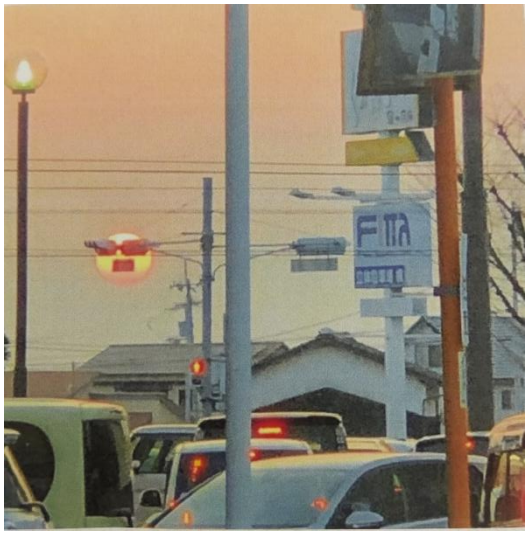
２）身の回りで気づいた「顔みたいだ」とか「○○にみえる」と感じたものを撮影します。

この課題は、１年前期の「幼児と造形表現」という授業で取り扱いコメントします。

※提出を求められたらすぐ出せるよう、画像データはきちんと保存しておいてください。

例１：どうみても、ペンギンに見えてしまうポット





例２：どうみても、
サングラスをかけているようにしか見えない太陽

あるモノに見えてしまうと、
もう本当にそれにしか見えなくなりますね！
人間って不思議です。楽しんで撮影してみてください。

②「春の自然の音（5秒まで）の動画」もしくは「おもしろい！と思った生きものの写真」を撮る。

② の要領

身近な自然とふれあうことは，子どもたちにはとても大切なことです。真の遊具は自然物であるとも言われます。樹木，草花，苔，野鳥，昆虫，魚などの生きものはもちろん，石や水，風なども自然物です。子どもの目になって近所の自然を初めて見る気分で眺めてみると，何が見えてきますか？　興味をひかれる生きものにきっと出会うことができます。気になる音も聞こえてきます。身近なものを記録してください。

注意点

１）「春の自然の音（5秒まで）の動画」もしくは「おもしろい！と思った生きものの写真」いずれかを１つ以上必ず撮影します。２つとも提出，複数提出もオッケーです。

２）音の動画は5秒までとします。

３）タイトルをつけ，撮影日時，撮影場所を書きます。

４）この課題については，１年前期の「幼児と環境」という授業で取り扱い，コメントします。

課題3：読書をし、感想文を書く。

子ども専攻での学びの準備として、子どもや子育てに関する内容の本、ものの考え方や生き方を学べるもの、またはあそびや絵本などの児童文化に関するものなど、読んでおくといい本はたくさんあります。

以下の【書籍リスト】、【絵本リスト】のそれぞれの中から興味が持てたものを、少なくとも1冊は必ず読み、ノートに著者名、タイトルを書き、感想文を書いてください。感想文は、以下の1～4の内容を必ず盛り込んで書いてください。文字の本と絵本を1冊ずつ、2冊は最低でも読みましょう。

文字数は自由です。ノートに手書きで書いてください。

1.どんな内容のおはなしであったか。（ざっくりと説明する。）
2.印象に残った部分・興味を持った部分はどういうところであったか。（具体的に説明する。）
3.2であげたことについて、あなた自身が考えることを書いてください。
4.その本の全体について、どんな感想を持ったか、印象を含めて書いてください。

【書籍（推奨するもの）リスト】　※子ども専攻の先生方のおススメの本です。

図書館などで見つかると思います。価格についてはご参考まで。

●汐見稔幸（しおみとしゆき）　『こども・保育・人間』　Gakken保育Books、2018年

●トッド・ローズ　（Todd Rose）　『ハーバードの個性学入門:平均思考は捨てなさい』早川書房、2019年
●ブレイディみかこ　『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』新潮社、2019年（単行本）、
新潮文庫、2021年（文庫本）
（参考：『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー２』も2021年に発売されています。）
●中澤渉　　『「学校の役割」ってなんだろう』筑摩書房、2021年

【絵本（推奨するもの）リスト】

●平野直再話、太田大八絵　『やまなしもぎ』福音館書店、1977年
●林明子作、筒井頼子絵　『はじめてのおつかい』福音館書店、1977年
●西内 ミナミ 作 、堀内 誠一 絵　『ぐるんぱのようちえん』福音館書店、1966年
●ガブリエル バンサン　『アンジュール―ある犬の物語』ブックローン出版、1986年
●ジョン・バーンガム作、光吉夏弥訳『ガンピーさんのふなあそび』ほるぷ出版、1975年
●モーリス・センダック作、じんぐうてるお訳　『かいじゅうたちのいるところ』冨山房、1975年
●ローレンス・ブルギニョン作、柳田邦男訳　『だいじょうぶだよ、ゾウさん』文溪堂、2005年
●スーザン・バーレイ作、小川仁央訳　『わすれられないおくりもの』評論社、1986年

※これらに限らず、ほかにも読んでおもしろい本はたくさんあるので、ぜひ読んでみてください。
本を読むのは、人と話すのと同じこと。そして大学での学びの準備としてとても大事なことです。